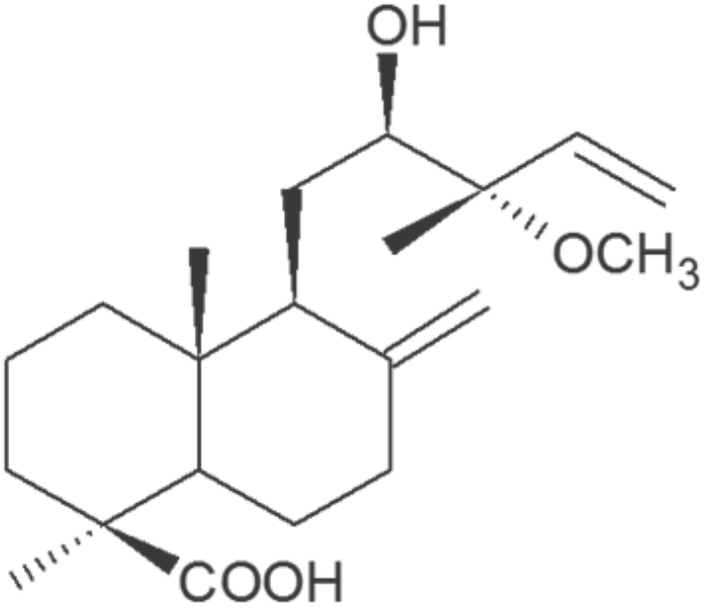
26Q-am08S

ヤブムラサキ（*Callicarpa mollis*）葉部からの新規化合物及び抗 *Leishmania*活性成分の探索

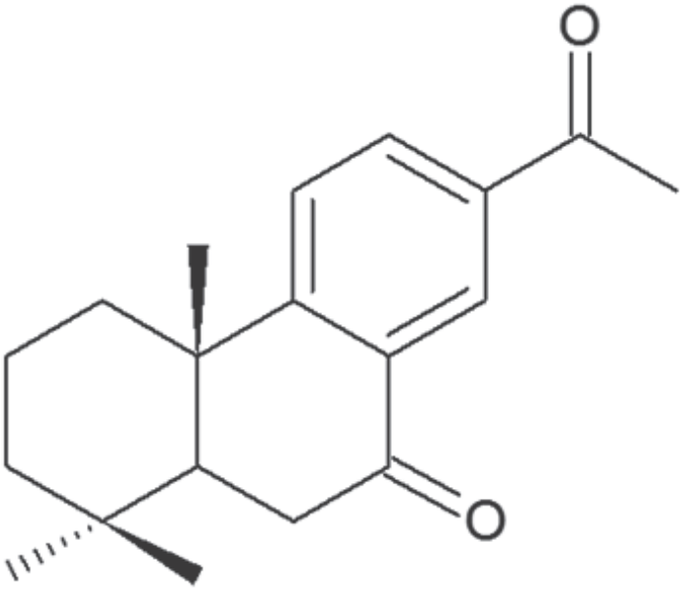
○山口 卓朗[1], 山野 喜[1], 杉本 幸子[1], 大塚 英昭[2], 松浪 勝義[1]（[1]広島大院医歯薬保, [2]安田女大薬）

【目的】リーシュマニア症は主に熱帯域で問題となっている感染症で、WHO により Neglected tropical disease「顧みられない熱帯病」として対策が求められている。今回、我々は広島県で採取したヤブムラサキ（*Callicarpa mollis*）に抗リーシュマニア活性を見出したので検討を行った。

【実験・結果】ヤブムラサキの乾燥葉 1.92 kg を MeOH で抽出し、常法に従い *n*-Hexane、EtOAc、1-BuOH で順次分配した。そのうち活性の見られた EtOAc 層 83.4 g を Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィーおよび HPLC により分離・精製を行い、新規化合物 1 種（**1**）、天然からの単離が初めてである化合物（**2**）を単離した。これらの化学構造は JBCA 法を含む NMR スペクトル解析により、以下の構造と決定した。



1



2